お財布に優しいスクーターはどれだ

東京～埼玉エコスクーター選手権 低燃費グランプリ

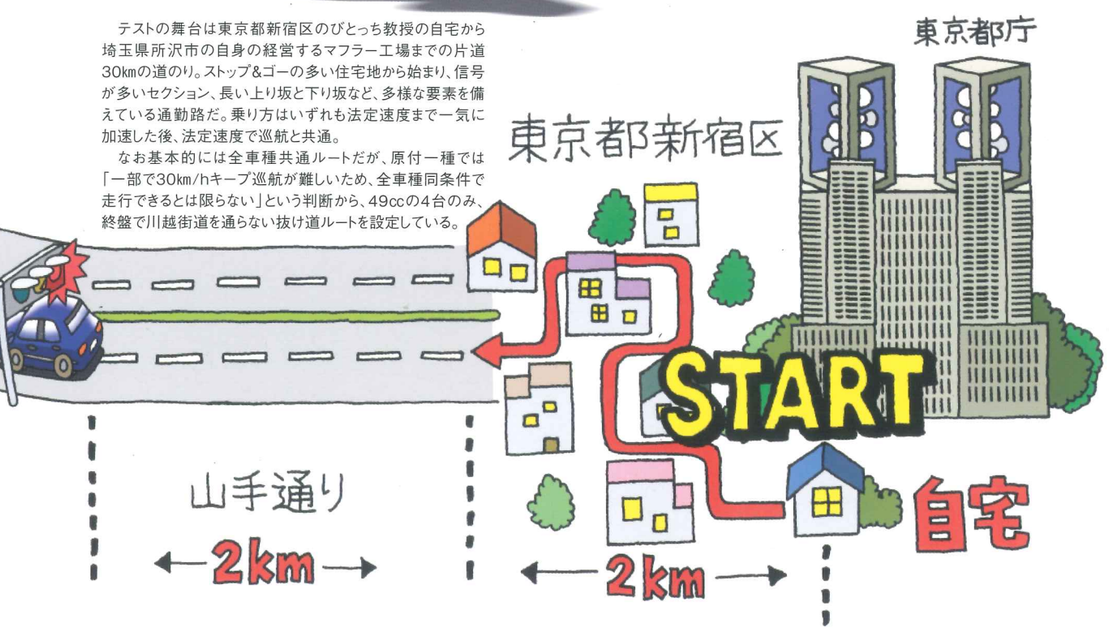
やっぱり49ccは強かった！

総合優勝は唯一の50km/ℓオーバーでDunk
アイドリングストップとeSPエンジンのPCXも大健闘

RESULT

順位	Machine	燃費(km/ℓ)	テスト距離(km)	ガソリン実使用量(ℓ)
～50ccの部				
優勝	Dunk	56.20	77.0	1.37
2位	トゥデイ	43.51	73.1	1.68
3位	レッツ4	41.70	65.9	1.58
4位	SR50 Purejet	37.41	75.2	2.01
～125ccの部				
優勝	PCX	43.98	152.2	3.46
2位	リード125	41.76	104.4	2.50
3位	ズーマーX	40.00	74.0	1.85
4位	Shモード	38.88	77.0	1.98
5位	アクシストリート	38.34	80.9	2.11
6位	Dio110	38.06	129.8	3.41
7位	シグナスX SR	34.54	68.4	1.98
8位	アドレスV125S	33.58	71.2	2.12
150～250ccの部				
優勝	PCX150	41.91	85.5	2.04
2位	マジェスティS	31.72	171.0	5.39
3位	フォルツァSi	30.56	70.0	2.29
4位	バーグマン200	29.43	78.0	2.65
5位	マグザム	28.06	71.0	2.53
6位	マジェスティ	24.91	71.0	2.85
7位	フォルツァZ	21.28	89.6	4.21
300cc以上の部				
優勝	スカイウェイブ650LX	19.63	69.3	3.53
2位	TMAX530	19.46	65.0	3.34

びとっち教授
長年モトチャンプ誌面で活躍する理論派テスター。毎日一定のルートを、バイクが変わっても同じ乗り方で走れる、公道テストの達人。



テストの舞台は東京都新宿区のびとっち教授の自宅から埼玉県所沢市の自身の経営するマフラー工場までの片道30kmの道のり。ストップ&ゴーの多い住宅地から始まり、信号が多いセクション、長い上り坂と下り坂など、多様な要素を備えている通勤路だ。乗り方はいずれも法定速度まで一気に加速した後、法定速度で巡航と共通。

なお基本的には全車種共通ルートだが、原付一種では「一部で30km/hキープ巡航が難しいため、全車種同条件で走行できるとは限らない」という判断から、49ccの4台のみ、終盤で川越街道を通らない抜け道ルートを設定している。

びとっち教授が片道30kmの通勤路でテスト！

新型エンジンの力を実証！

新開発50cc用水冷エンジン「eSP」搭載のDunk。アイドリングストップシステムもあり、今回唯一の50km/ℓオーバーで総合優勝！

雨は燃費の大敵です

以前、スーパーカブ110でホンダの青山本社からツインリンクもてぎまでの雑誌対抗エコラン大会がありました。私が優勝した第1回大会は一日中雨で、燃費は約70km/ℓでした。第2回大会は晴天で、「走行中にエンジンを切ってはいけない」など制約が増えたにもかかわらず、優勝したキッシー岸田の燃費は100km/ℓを越えました。

走行抵抗を嫌うエコランだともっと極端で、晴天なら3000km/ℓを記録するマシンが、雨では900km/ℓにまで落ちてしまうこともあるほどです。

レインウェアなど雨用の装備が増えて重くなるとか、湿度でのエンジン的なマイナス要因は当然ありますが、雨の日の燃費悪化の一番の理由は、やはり路面の水による走行抵抗増大なのです。一般公道を原付で走る場合、約30%ほど燃費が悪化すると私は見積もっています。公道を走る以上、雨の日があるのは仕方ありませんが、燃費にはツライことなのです。

なお今回は、全てほぼ同一となるようテスト条件を揃えてデータを取りました。なので、天候や温度、路面状況による燃費への影響はないと考えてくださいね。（びとっち）

出典：
「得するスクーターオールカタログ'14-'15」（917円+税）
発行：三栄書房
全国の書店で絶賛発売中